

岡山県感染症週報 2013 年 第 47 週 (11 月 18 日～ 11 月 24 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

12 月 1 日は世界エイズデーです。

◆2013 年 第 47 週 (11/18～11/24) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 47 週 2 類感染症 結核 2 名 (40 代 女 1 名、80 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 幼児 女 1 名、30 代 男 1 名)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (40 代 男)
 レプトスピラ症 1 名 (60 代 男)
 5 類感染症 梅毒 1 名 (20 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- RS ウイルス感染症は、県全体で 70 名 (定点あたり 1.00 → 1.30 人) の報告があり、前週より増加しました。
 ○インフルエンザは、県全体で 31 名 (定点あたり 0.10 → 0.37 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 436 名 (定点あたり 6.65 → 8.07 人) の報告があり、前週より増加しました。

【第 48 週 速報】

- 11 月 25 日、岡山市の小学校で、今シーズン初となる感染性胃腸炎による臨時休業がありました。
 ○腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157: 幼児 女) の発生がありました (11 月 27 日)。

- 12 月 1 日は『世界エイズデー』です。『恋愛の数だけ HIV を語ろう』
 岡山県では『世界エイズデー (12 月 1 日)』の関連行事として、エイズに関する正しい知識についての啓発活動及び夜間等の HIV 抗体検査を実施いたします。詳しくは『今週の注目感染症』をご覧ください。
[【岡山県からのお知らせ 平成 25 年度世界エイズデーの取組について】](#)
- 腸管出血性大腸菌感染症**は、第 47 週に 2 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 80 名となり、第 39 週から 9 週連続の発生となっています。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
- RS ウイルス感染症**は、県全体で 70 名 (定点あたり 1.00 → 1.30 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年の同時期で最も定点あたり報告数が多くなっています。地域別では、岡山市 (2.57 人)、美作地域及び備北地域 (2.00 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市と備北地域で大きく増加しました。年齢別累計では、6 ヶ月未満 21%、6-12 ヶ月 24%、1 歳 34%と、1 歳以下の乳児が 79% を占めています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後さらに患者数が増加する恐れがあります。全国の第 46 週の発生状況を見ると、定点あたり 1.28 人の報告があり、岡山県と同様に過去 10 年の同時期で最も多くなっています。ひきつづき手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。
- インフルエンザ**は、県全体で 31 名 (定点あたり 0.10 → 0.37 人) の報告があり、前週より大きく増加しました。倉敷市では、23 人 (定点あたり 1.44 人) の報告があり、インフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.00 人」を超えました。県全体としても、第 44 週以降増加が続いていますので、手洗い・うがいなど、自分でできる感染予防に努めましょう。定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。ワクチンの在庫及び予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。
 県内の詳しい発生状況などは、[「インフルエンザ情報」](#)をご覧ください。
- 感染性胃腸炎**は、県全体で 436 名 (定点あたり 6.65 → 8.07 人) の報告があり、前週より増加しました。第 42 週以降増加が続いています。地域別では、倉敷市 (9.36 → 12.82 人)、備北地域 (10.00 → 11.25 人)、岡山市 (7.57 → 8.07 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、0～2 歳 34%、3～5 歳 25%、6～9 歳 16% の順で多く、5 歳以下の乳幼児が 59% を占めています。第 48 週の速報では岡山市の小学校で、今シーズン初となる感染性胃腸炎による学級閉鎖も報告されていますので、手洗い・うがいを励行し、感染予防に努めて下さい。通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▲	★★
咽頭結膜熱	▲	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★
感染性胃腸炎	▲	★★	水痘	▲	★
手足口病	▼	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▶	★★	百日咳	▶	
ヘルパンギーナ	▶	★	流行性耳下腺炎	▶	★
急性出血性結膜炎	▶		流行性角結膜炎	▼	★
細菌性髄膜炎	▶		無菌性髄膜炎	▶	
マイコプラズマ肺炎	▲	★	クラミジア肺炎	▼	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▶	—			

【記号の説明】 前週からの推移:

 : 2 倍以上の減少
  : 1.1~2 倍未満の減少
  : 1.1 未満の増減
  : 1.1~2 倍未満の増加
  : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

今週の注目感染症

後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

12月1日は『世界エイズデー』です。『恋愛の数だけHIVを語ろう』

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

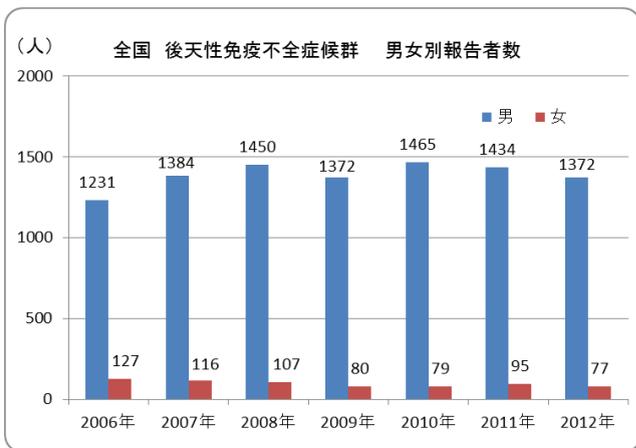
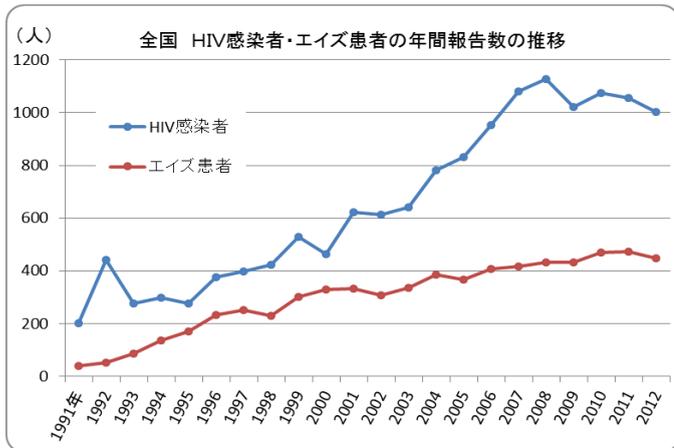
・API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2012年に報告されたHIV感染者数は1,002件、エイズ患者数は447件であり、両者を合わせた新規報告件数は1,449件でした。2012年に累積報告件数（凝固因子製剤による感染例を除く）は2万件に達し、2012年末の時点ではHIV感染者14,706件、エイズ患者6,719件で計21,425件となりました。一方、HIV検査や相談件数は減少あるいは頭打ちであり、社会的関心の低下が懸念されています。



【全国の HIV 感染者とエイズ患者報告数】

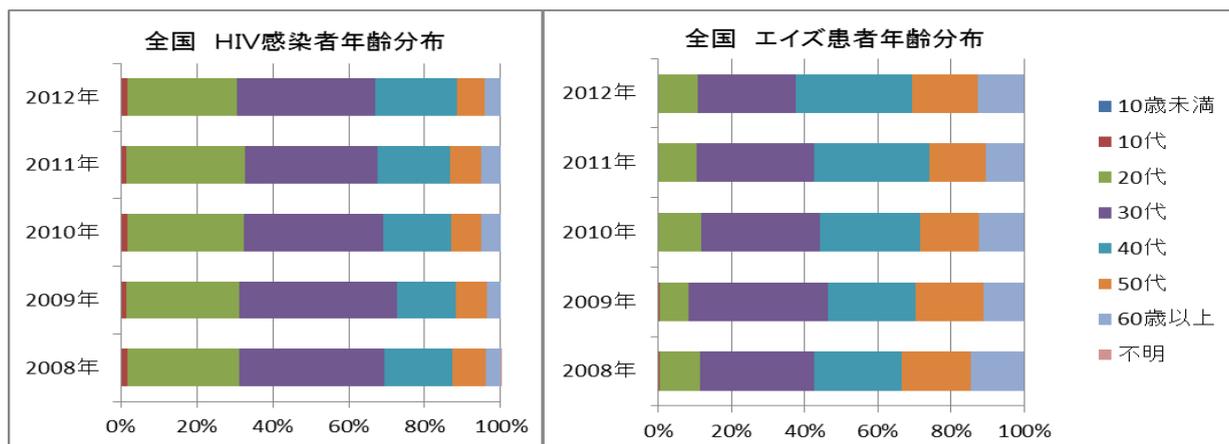
HIV 感染者及びエイズ患者ともに、日本国籍男性が報告例の大半を占めています。感染者数は、2008 年以降増加から横ばいに転じています。エイズ患者報告例も、日本国籍男性を中心に増加傾向が続いていますが、2012 年は前年より減少しました。感染経路では、HIV 感染者の 72.3%、エイズ患者の 53.2% を同性間性的接触による感染例が占めています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 24 (2012) 年 エイズ発生動向データより作成

【全国の HIV 感染者とエイズ患者の年齢分布】

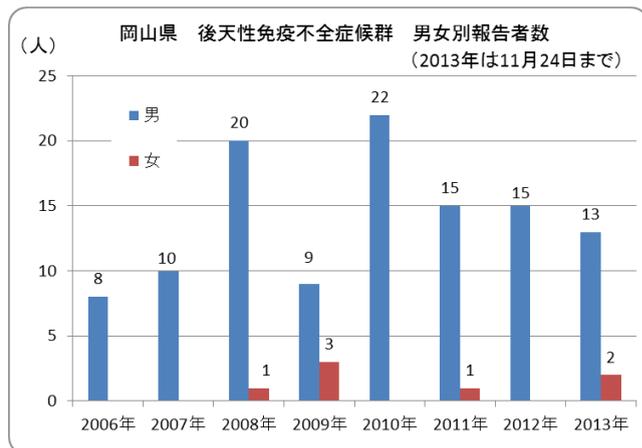
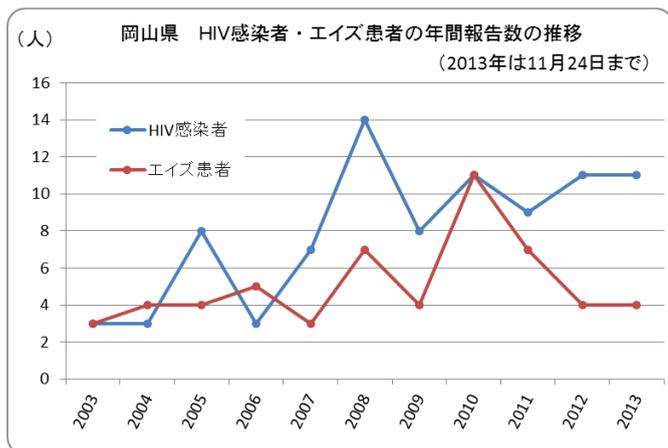
年齢分布では、HIV 感染者は 20 代、30 代に集中しており、エイズ患者では 20 歳以上に幅広く分布し、特に 30 代、40 代に多く報告されています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 24 (2012) 年 エイズ発生動向データより作成

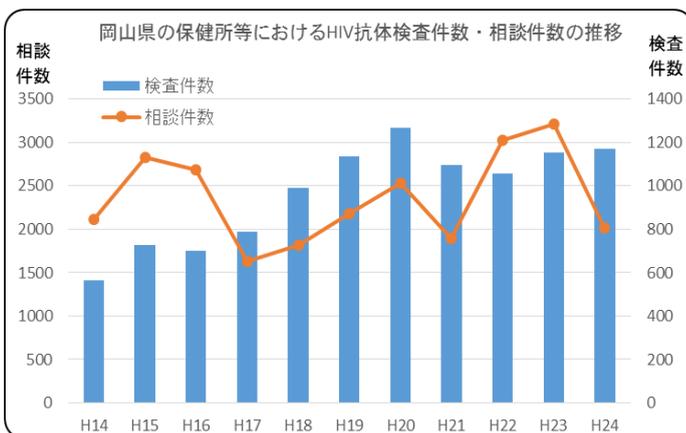
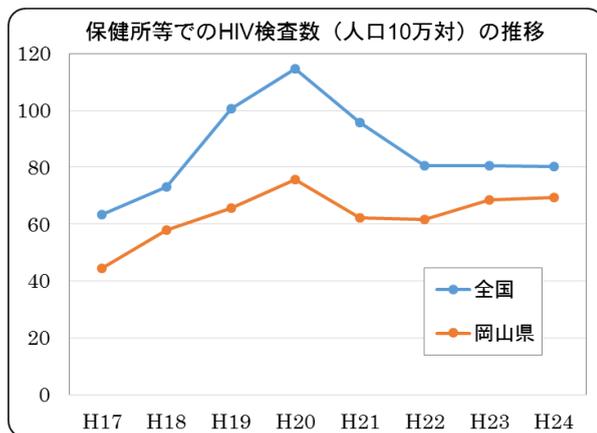
【岡山県の HIV 感染者とエイズ患者報告数】

エイズ発生動向調査によると、2012 年の岡山県における HIV (ヒト免疫不全ウイルス) 感染者は 11 名、エイズ患者 (いきなりエイズ) は 4 名であり、報告者は全て男性でした。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 24 (2012) 年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から 2013 年のデータを追加して作成

【岡山県の保健所における HIV 抗体検査・相談】



2012年のエイズ発生動向調査において、岡山県の新規 HIV 感染者は、人口 10 万対報告で全国第 9 位であったと報告されました。しかし、岡山県の保健所等で HIV 検査を受けられた人の数は全国に比べて少なく、特に近年は検査数が横ばいで推移しています。

HIV に感染しているかどうかは HIV 検査を受けないと分かりません。HIV に感染した段階では自覚症状がなく、気付かないうちに大切な人にうつしてしまうかもしれません。HIV は、たとえ感染しても感染を早期に発見すれば服薬等をつづけることで、エイズの発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療がエイズ発症防止や感染拡大防止にも結びつくことから、無料・匿名で受けられる保健所などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

2012年新規HIV感染者報告数（上位10位）

順位	自治体	人口10万対報告数
1	東京都	2.819
2	大阪府	1.399
3	愛知県	1.065
4	福井県	0.872
5	沖縄県	0.857
6	福岡県	0.847
7	神奈川県	0.729
8	和歌山県	0.603
9	岡山県	0.567
10	茨城県	0.541

保健所での HIV 検査は、血液中に HIV に対する抗体があるかどうかを調べる「抗体検査」です。感染の可能性のある機会があつてから 3 ヶ月以上経ってからの検査がすすめられています。また、県内エイズ治療拠点病院でも HIV 検査が受けられます。拠点病院では、検査料金 1,000 円、結果が即日（1～2 時間後）で分かり、「抗原抗体検査」です。感染の可能性のある機会があつてから 8 週間以上経ってからの検査がすすめられています。いずれの検査も事前に予約が必要です。拠点病院の検査は、原則、匿名では受けられません。

HIV 感染者……感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

エイズ患者……初回報告時にエイズと診断されたもの。「いきなりエイズ」*。

（既に HIV 感染者と報告されている症例がエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

*「いきなりエイズ」とは、HIV に感染した人が、何も治療を受けないままエイズを発症して、初めて HIV に感染していたことを知る状態をいいます。

岡山県では、『世界エイズデー』の関連事業として、エイズに関する正しい知識等についての啓発活動及び保健所では夜間等の HIV 抗体検査を実施いたします。このうち備前・美作保健所の検査日には、検査当日に結果をお知らせできる迅速検査を無料・匿名で受けることができます（要予約）。

○県保健所・支所における『世界エイズデー』関連検査実施日時・啓発活動はこちらから

・[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

県保健所・支所における検査の予約は、検査実施日前日 17 時まで受け付けており、希望者は、梅毒・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。

※月曜日に検査を実施する保健所・支所については、前週金曜日の 17 時までには予約が必要です。

[（平成 25 年度保健所・支所における世界エイズデー関連検査）](#)

○[岡山市保健所](#)、[倉敷市保健所](#)のエイズ・性感染症相談、検査はこちらから

○[エイズ治療拠点病院の HIV 検査（電話相談は行っていません。）](#)はこちらから

【後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは】

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気ですが、HIV 感染＝エイズということではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになってしまいます。このような日和見感染症のうち、特定の感染症を発症した時点でエイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬が出ており、きちんと服薬することでエイズ発症を予防することが可能になっています。

HIV に感染すると、通常6～8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、こういった症状からだけでは HIV に感染しているかどうかを確認することはできず、HIV 検査を受けてはじめて感染の有無を確認することができるのです。

【感染経路・予防方法】

HIV の感染経路は、次の3 つです。

- (1) 性行為による感染…相手がウイルスをもっていると、粘膜や傷口から感染します。
- (2) 血液を介しての感染…注射の回し打ちなどによって感染します。
- (3) 母親から赤ちゃんへの母子感染…妊娠中や出産時及び母乳から感染することがあります。日本では、お母さんが HIV 感染症の治療薬を飲むことや、母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を1%以下に抑えることができます。

[・エイズ Q&A \(エイズ予防情報ネット\)](#)

HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV 感染／エイズ予防にとって最も有効な手段です。

HIV 等性感染症検査目的での献血は絶対に行わないでください!

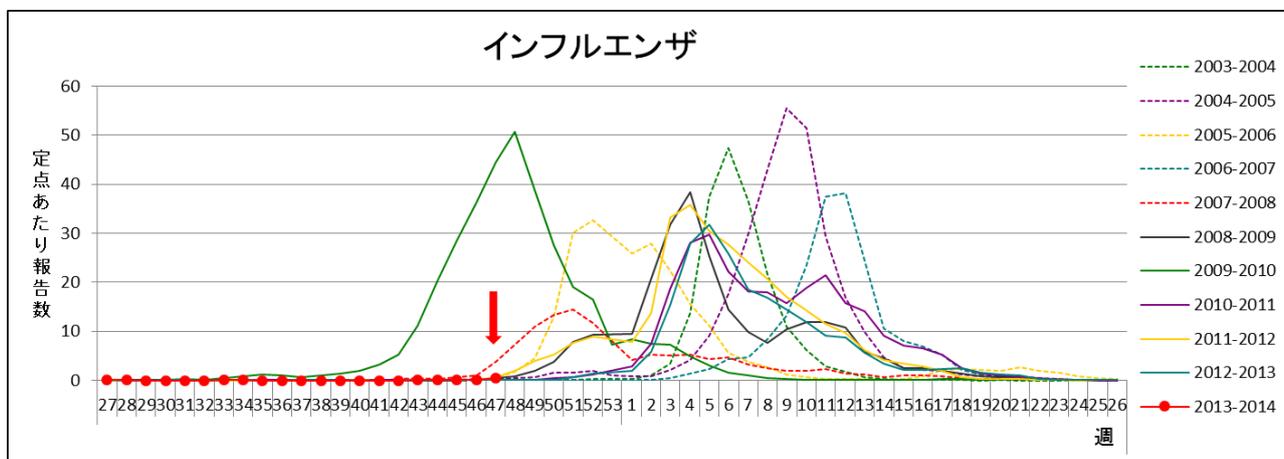
HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果、HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

保健所では、HIV 等性感染症の検査を無料・匿名で受けることができます。検査をご希望の方は、感染の可能性のある機会があってから3ヶ月以上経ってから、保健所やエイズ治療拠点病院にて、検査をしてください。

インフルエンザ情報 2013 年第 47 週 (11 月 18 日 ~ 11 月 24 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 31 名（定点あたり 0.10 → 0.37 人）の発生がありました（84 定点医療機関報告）。
- 倉敷市の小学校でインフルエンザとみられる臨時休業がありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。
- 第 47 週の倉敷市の患者 3 名から、AH3 型のインフルエンザウイルスが検出されました。

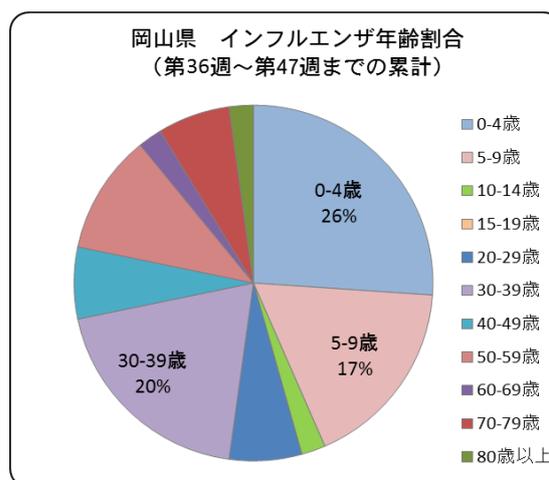
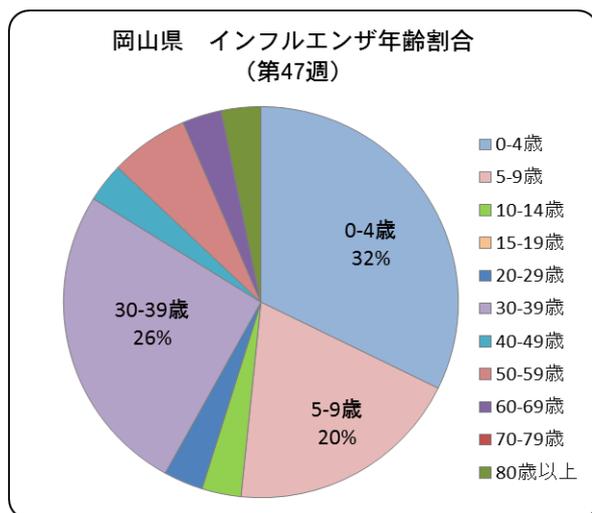


※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、倉敷市で 23 名、備中地域で 5 名、備北地域で 3 名の報告があり、県全体で 31 名（定点あたり 0.10 → 0.37 人）の発生となりました。県全体としての報告数はインフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり 1.0 人」を超えていないものの、倉敷市では定点あたり 1.44 人となり、地域的な流行が見られています。また、倉敷市の小学校で集団発生による学級閉鎖が報告されています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、県内ではすでに学校等の臨時休業も報告されていますので、手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

1. 年齢別発生状況



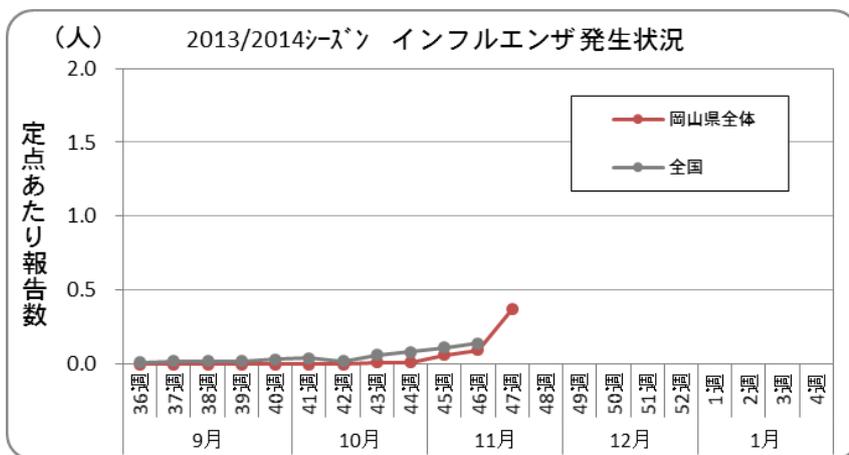
インフルエンザ患者の年齢割合は、0～4 歳が 32%、30 代が 26%、5～9 歳が 20% の順で多く、9 歳以下の乳幼児が 52% を占めています。幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

2. 地域別発生状況

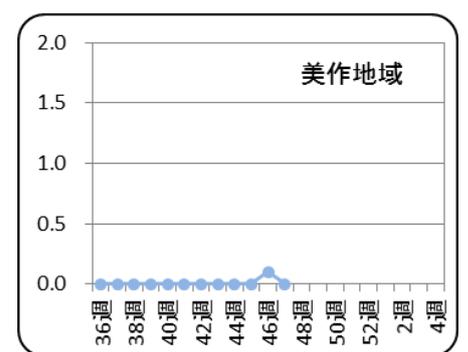
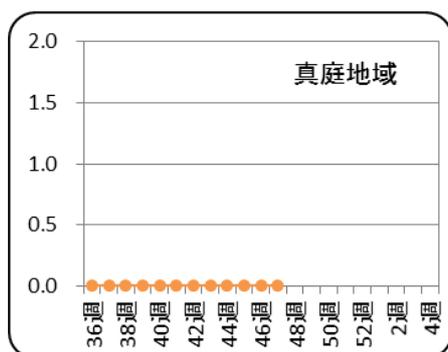
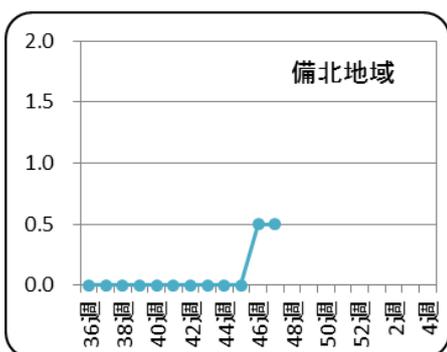
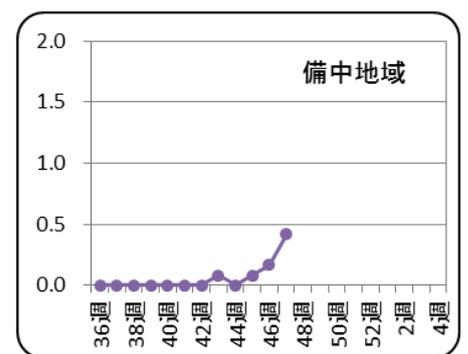
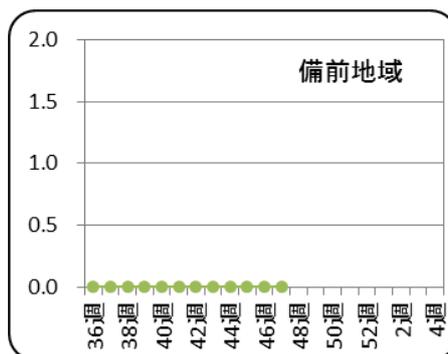
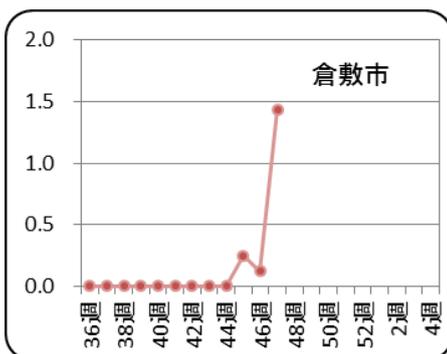
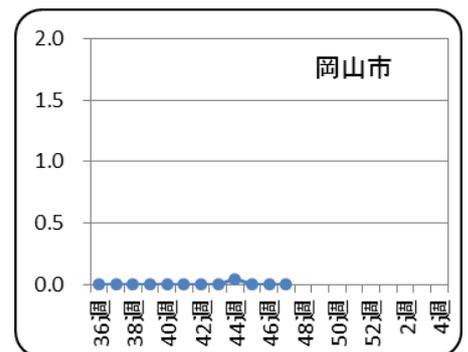
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	31	↑	備 中	患者数	5	↑
	定点あたり	0.37			定点あたり	0.42	
岡山市	患者数	—	→	備 北	患者数	3	→
	定点あたり	—			定点あたり	0.50	
倉敷市	患者数	23	↑	真 庭	患者数	—	→
	定点あたり	1.44			定点あたり	—	
備 前	患者数	—	→	美 作	患者数	—	↓
	定点あたり	—			定点あたり	—	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第46週(11/11～11/17)速報値によると、全国では定点あたり0.14人であり、発生はまだ散発的です。地域別では、沖縄県(1.02人)、北海道(0.71人)、岐阜県(0.49人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、沖縄県でインフルエンザの流行が始まりました。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第47週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3型が3株でした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が7株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が40株、AH1pdm09型が16株、B型（ビクトリア系統）が7株、B型（山形系統）が7株、B型（系統不明）が6株で、昨シーズンの同時期同様AH3型が最も多く検出されています。

（平成25年11月28日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 47 週	2013 年 11 月 19 日	倉敷市	小学生	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 47 週	2013 年 11 月 19 日	倉敷市	小学生	男	
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 47 週	2013 年 11 月 19 日	倉敷市	小学生	男	

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学級閉鎖が倉敷市保健所管内の小中学校でありました。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	44	45	22	23	2	3	—	—	0	1	2	2	H25. 11. 13
岡山市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
倉敷市	44	44	22	22	2	2	—	—	—	—	2	2	H25. 11. 18
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	0	1	0	1	0	1	—	—	0	1	—	—	H25. 11. 13
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第47週：2施設

累計：3施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	1	2	2	—	—	—	—	—	—

<インフルエンザの予防接種はお早めに！>

インフルエンザの予防接種を行っても、**抗体ができるまでには2週間程度**かかるとされています。本格的な流行が始まる前に、**早めのワクチン接種**をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 47週 (2013/11/18~2013/11/24)

2013年11月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	31	0.37	-	-	23	1.44	-	-	5	0.42	3	0.50	-	-	-	-
RSウイルス感染症	70	1.30	36	2.57	13	1.18	-	-	1	0.14	8	2.00	-	-	12	2.00
咽頭結膜熱	14	0.26	-	-	-	-	-	-	10	1.43	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	0.78	23	1.64	9	0.82	-	-	3	0.43	1	0.25	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	436	8.07	136	9.71	141	12.82	44	4.40	30	4.29	45	11.25	1	0.50	39	6.50
水痘	39	0.72	14	1.00	8	0.73	13	1.30	-	-	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	18	0.33	3	0.21	3	0.27	6	0.60	6	0.86	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	9	0.64	4	0.36	3	0.30	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	2	0.17	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 47週 (2013/11/18~2013/11/24)

2013年11月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	31	0.37	-	-	23	1.44	-	-	5	0.42	3	0.50	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	0.26	-	-	-	-	-	-	10	1.43	-	-	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	0.78	23	1.64	9	0.82	-	-	3	0.43	1	0.25	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	436	8.07	136	9.71	141	12.82	44	4.40	30	4.29	45	11.25	1	0.50	39	6.50
水痘	39	0.72	14	1.00	8	0.73	13	1.30	-	-	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	18	0.33	3	0.21	3	0.27	6	0.60	6	0.86	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	2	0.17	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	1	0.25	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第47週 2013/11/18~2013/11/24)

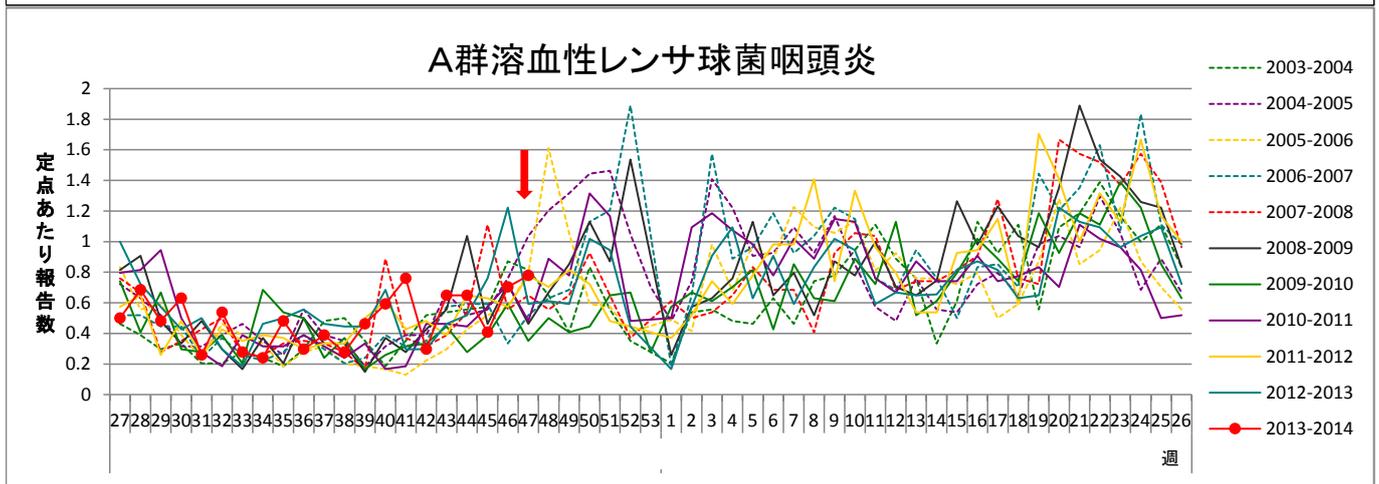
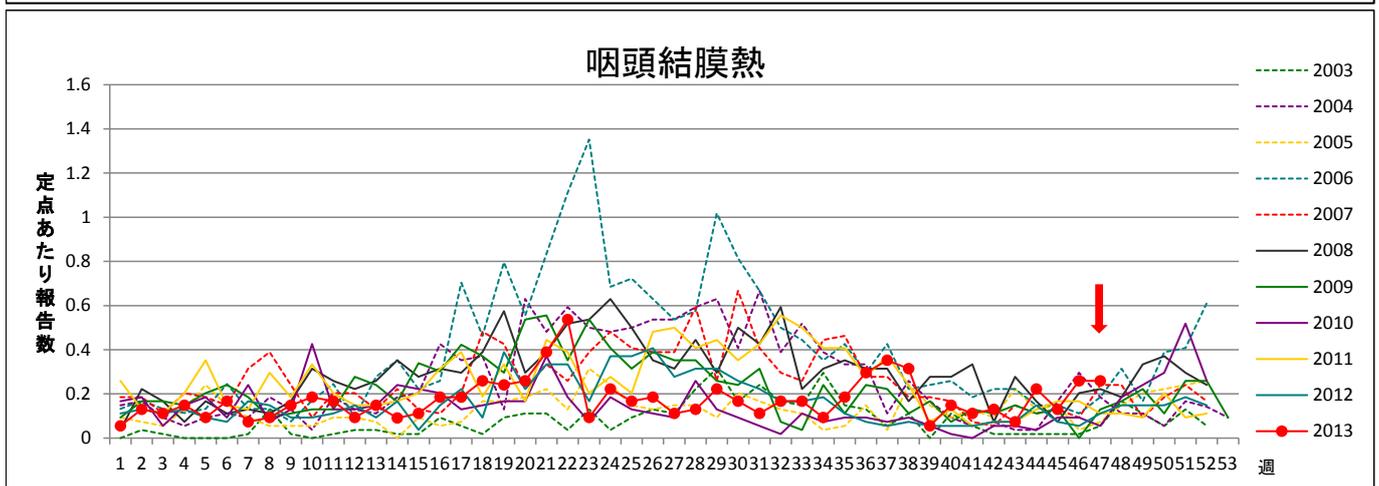
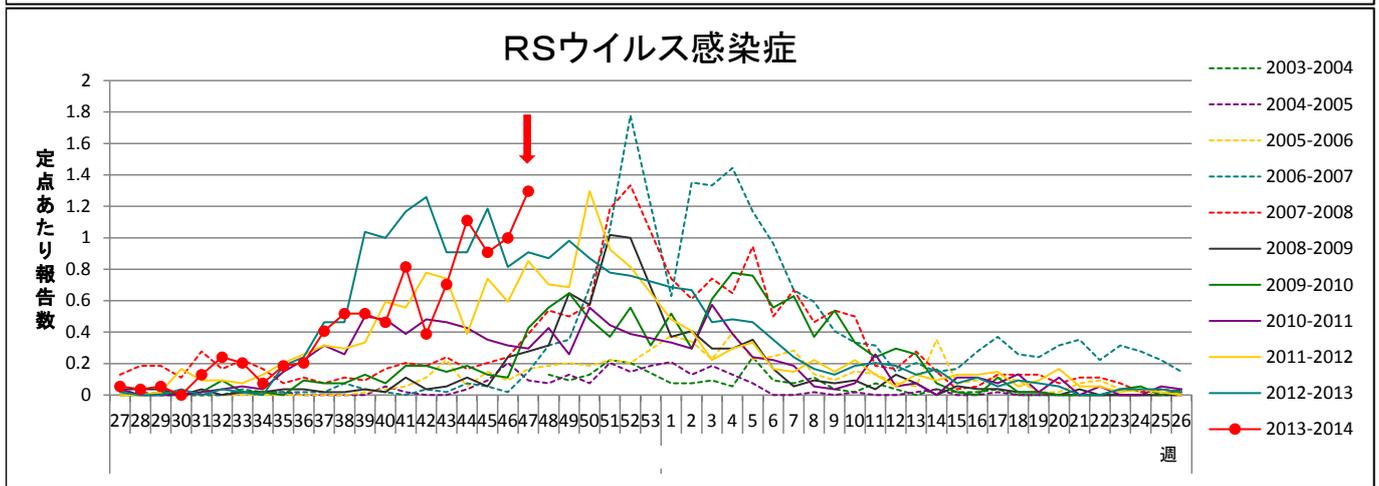
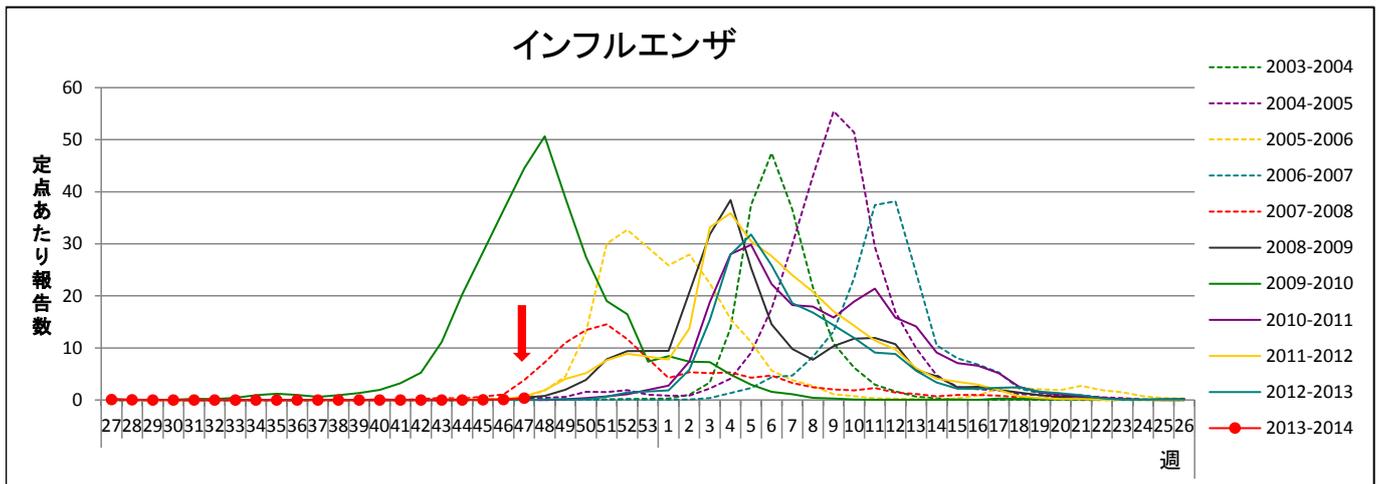
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	31	-	-	1	1	2	6	4	1	1	-	-	1	-	1	8	1	2	1	-	1

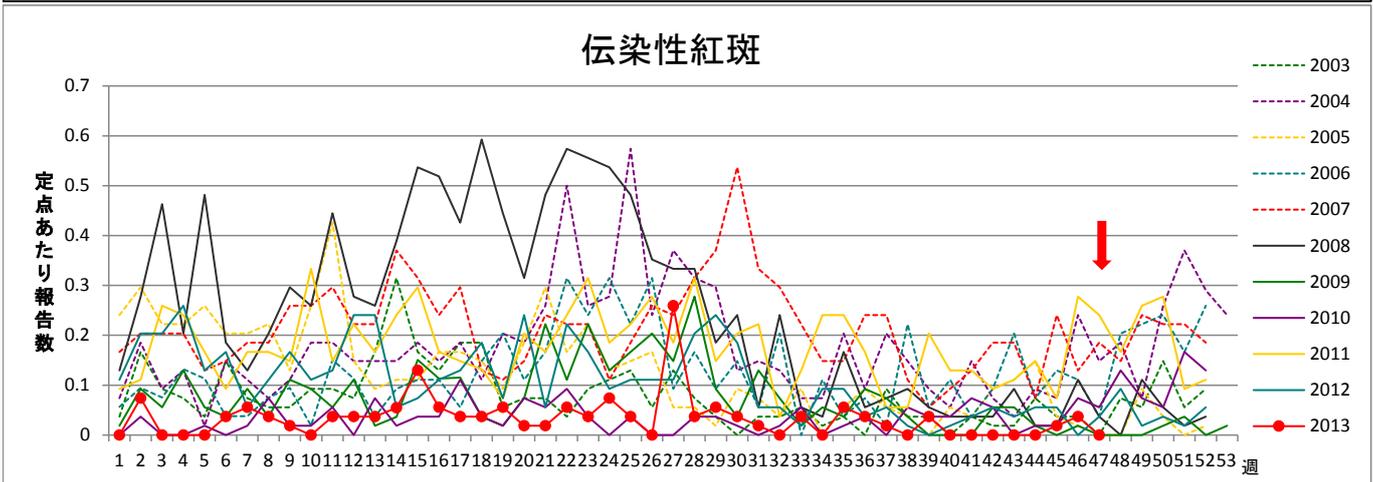
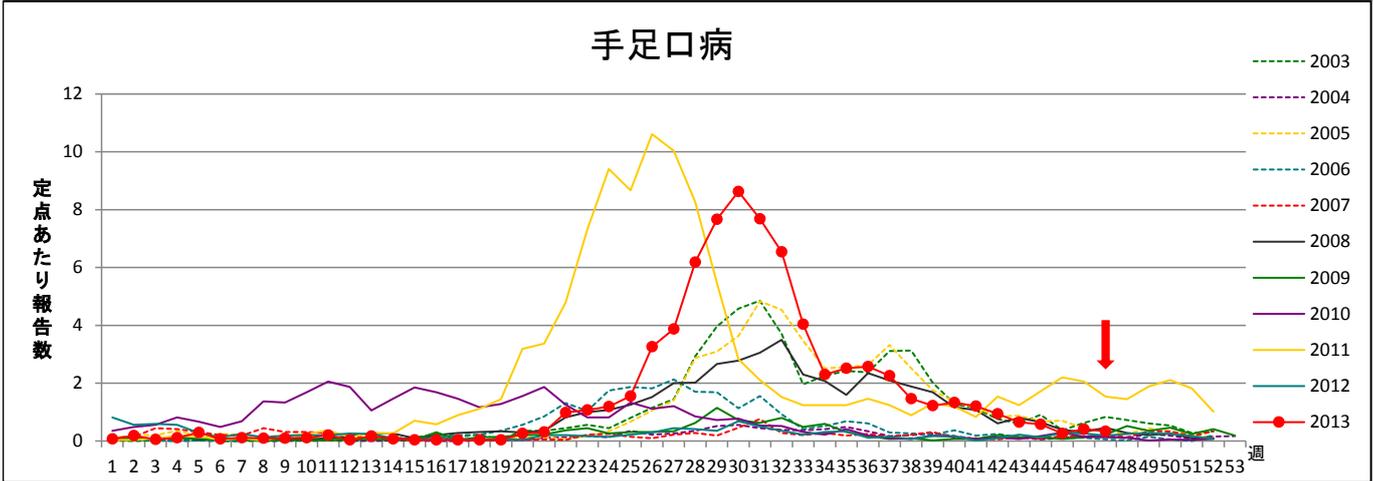
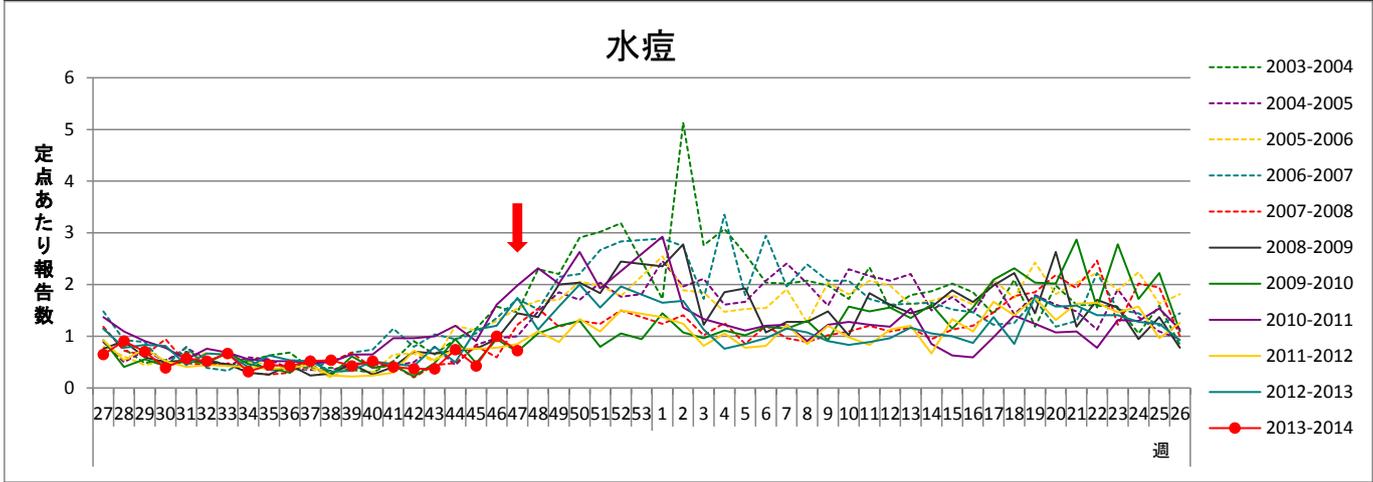
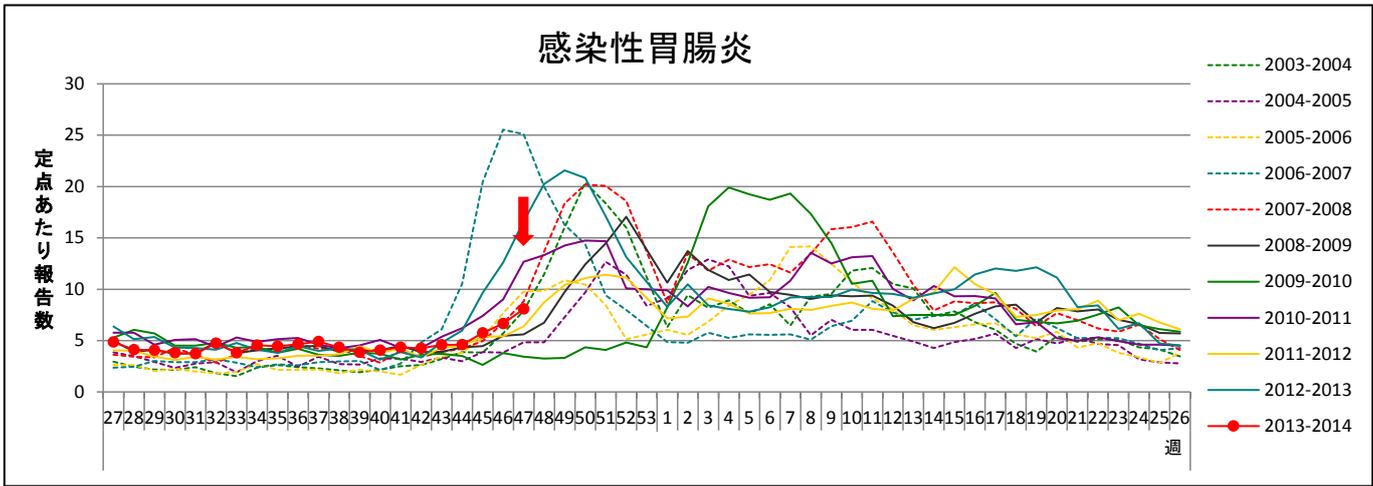
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	70	9	17	29	14	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	1	3	2	1	1	3	-	1	1	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	-	-	-	1	-	4	3	12	6	5	3	8	-	-
感染性胃腸炎	436	5	24	67	46	41	45	32	34	12	17	15	44	4	50
水痘	39	-	2	8	7	9	8	1	2	1	-	-	1	-	-
手足口病	18	-	3	6	7	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	1	5	12	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

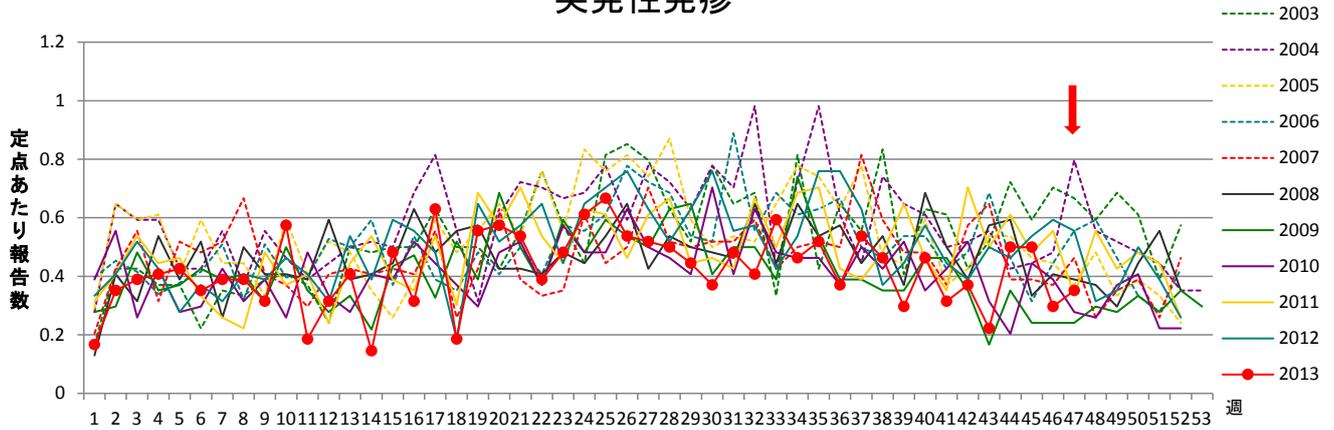
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

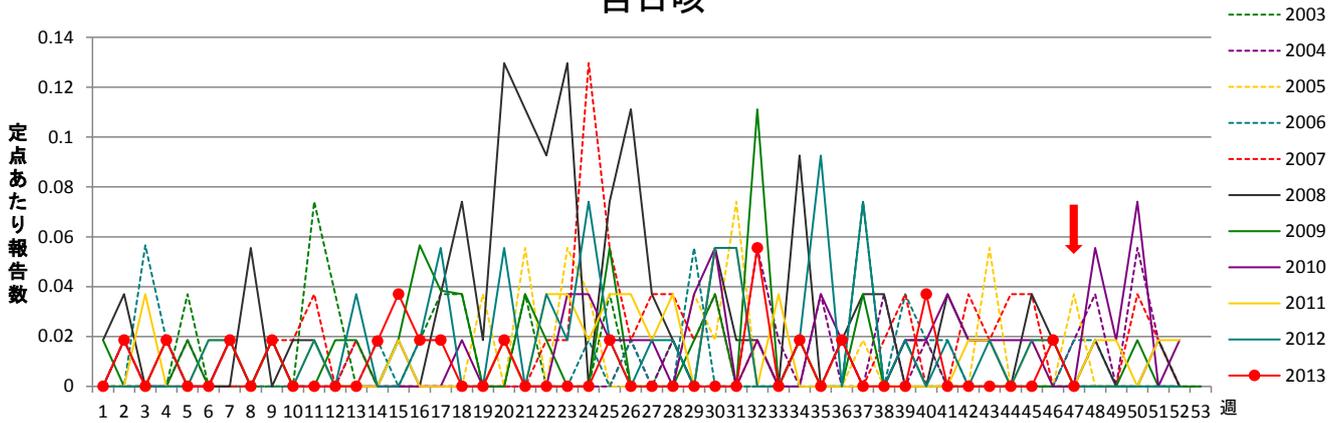




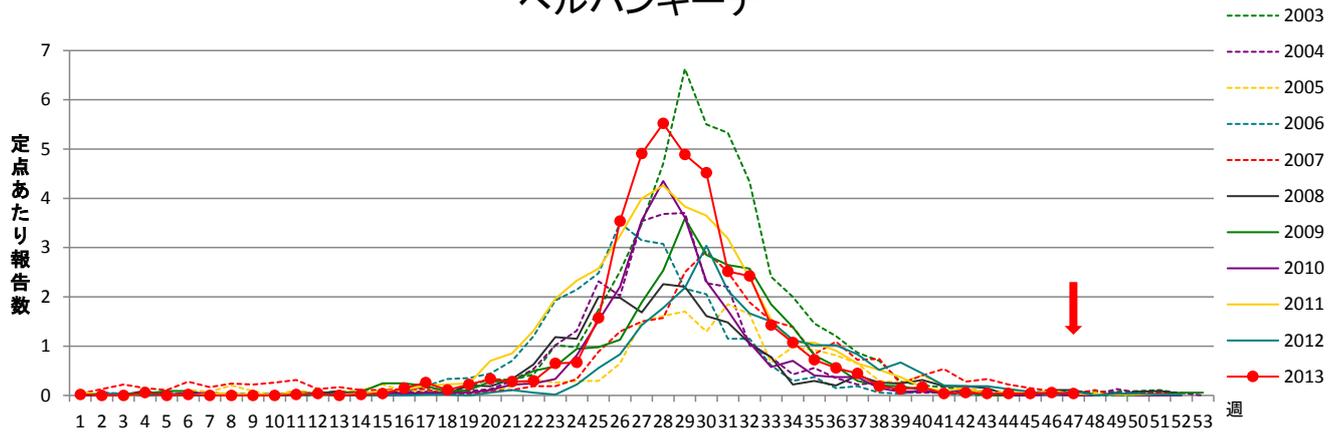
突発性発疹



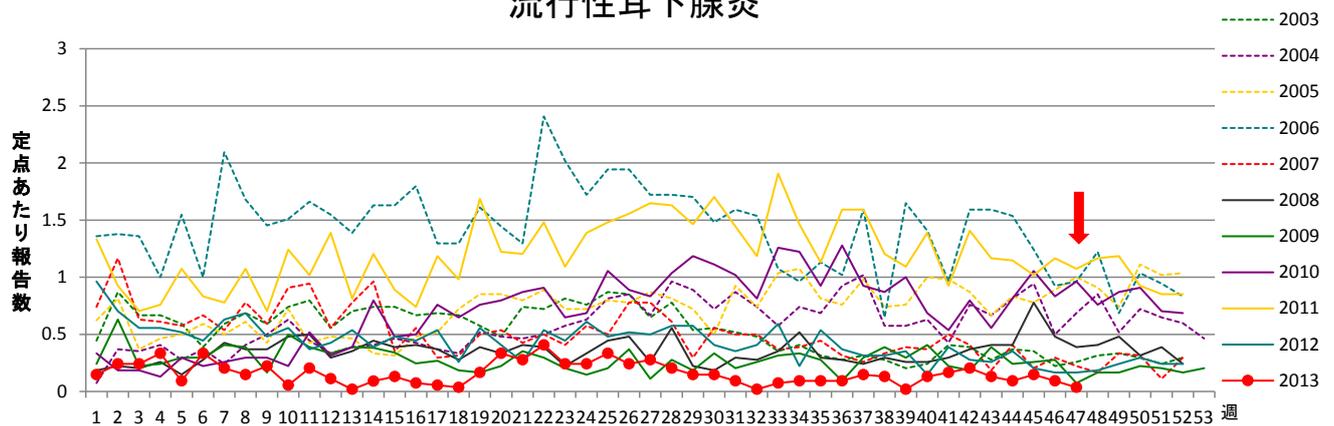
百日咳



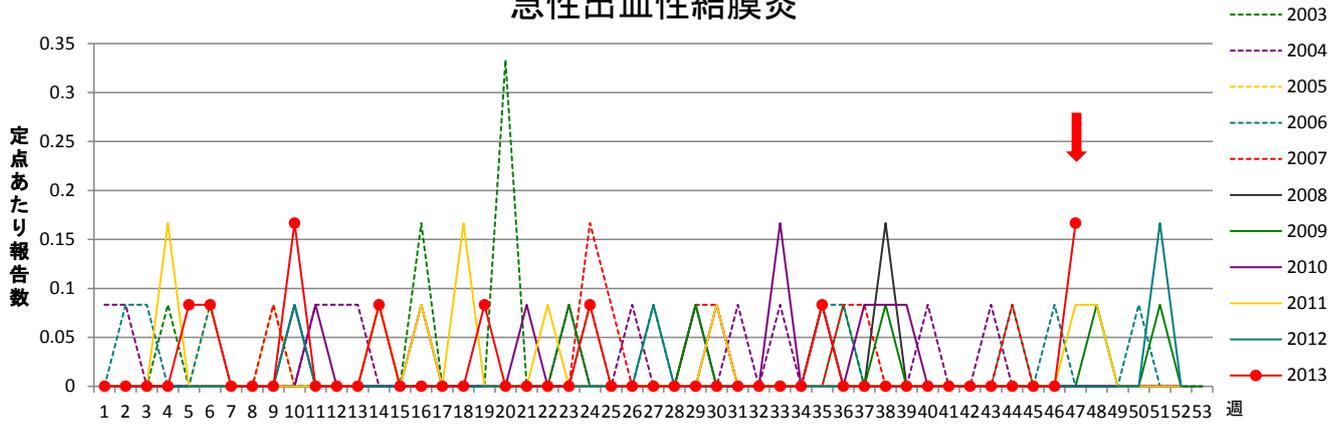
ヘルパンギーナ



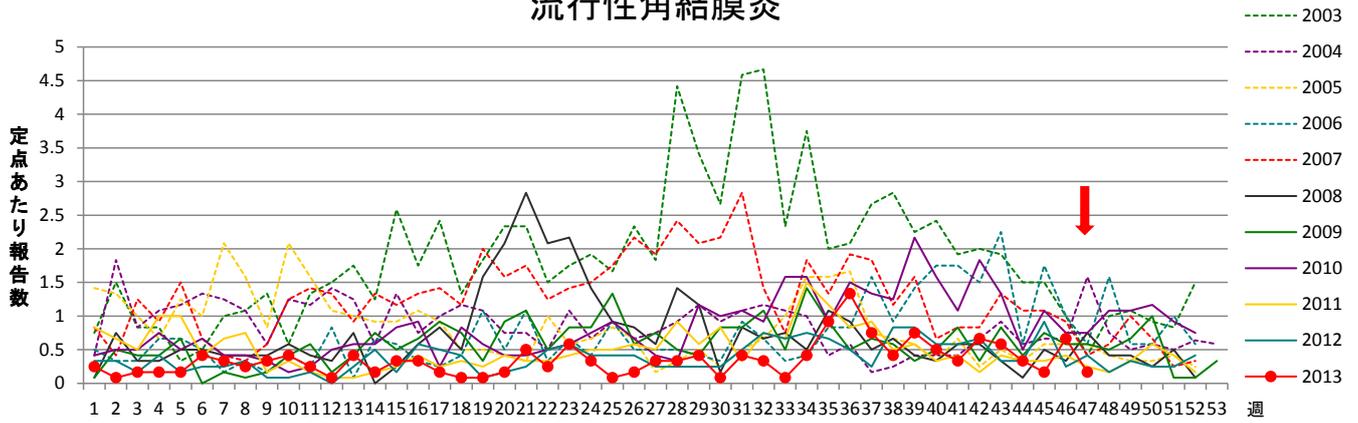
流行性耳下腺炎



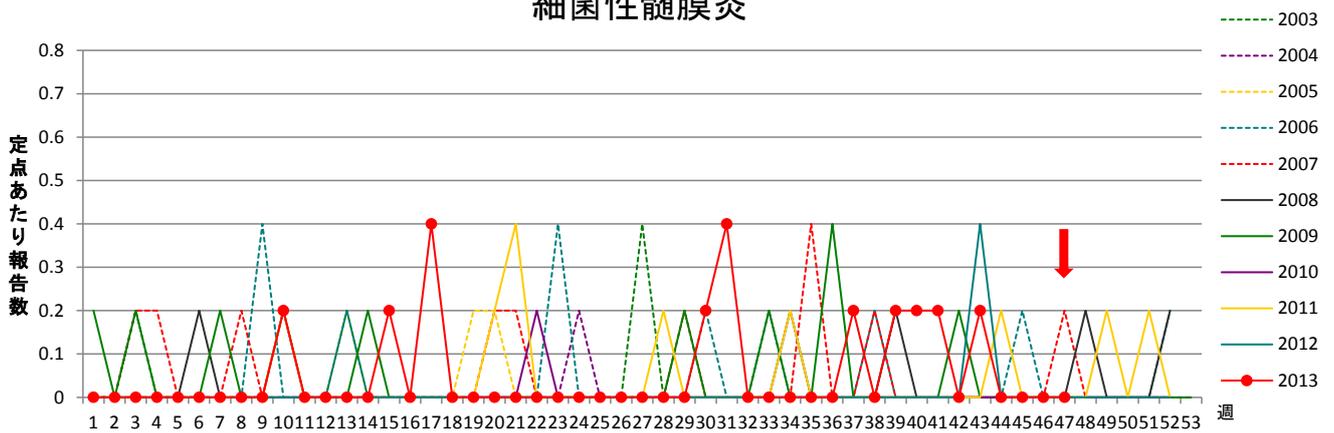
急性出血性結膜炎



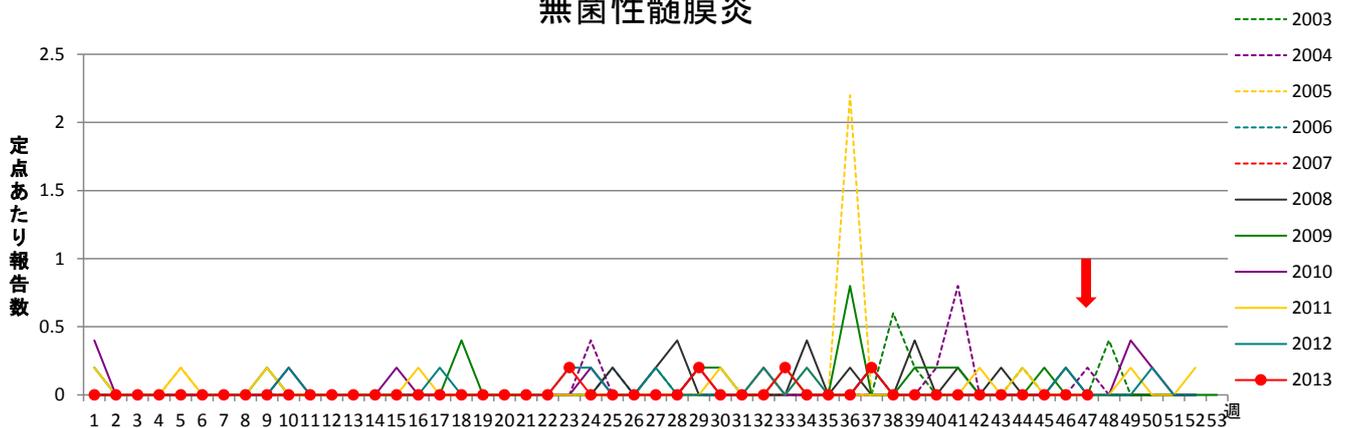
流行性角結膜炎



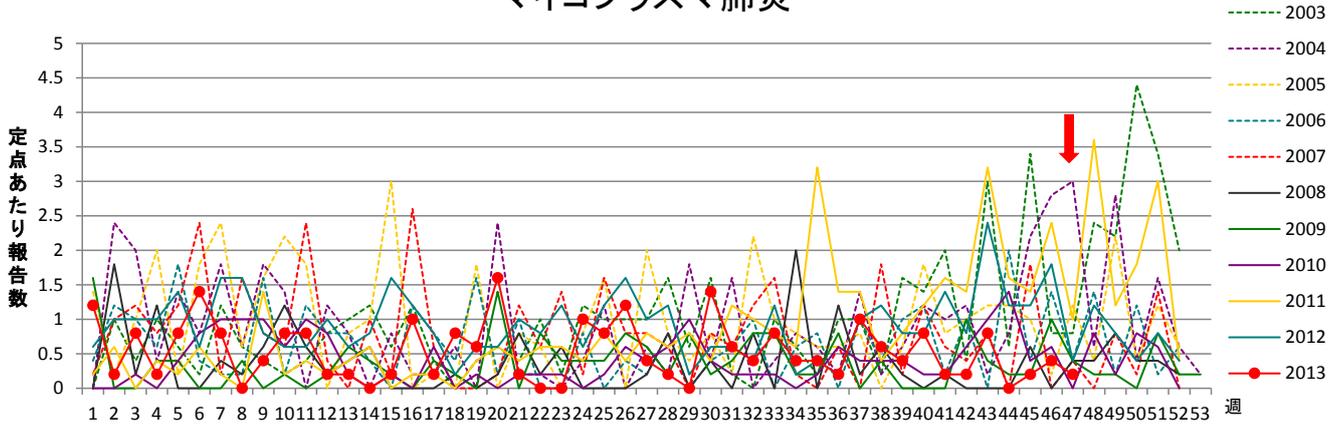
細菌性髄膜炎



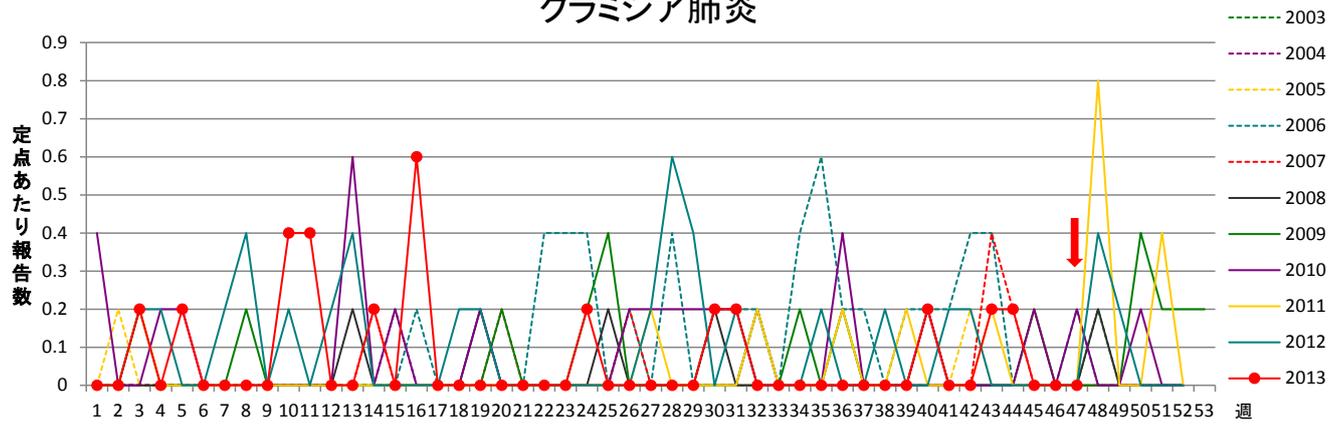
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

● 2013-2014

